

いとこ の森通信

2000
No.3

100平方メートル運動の森・トラスト



この用紙には植物（資源活用）のため
再生紙を使用しています。

NATIONAL TRUST

知床で夢を育てませんか！

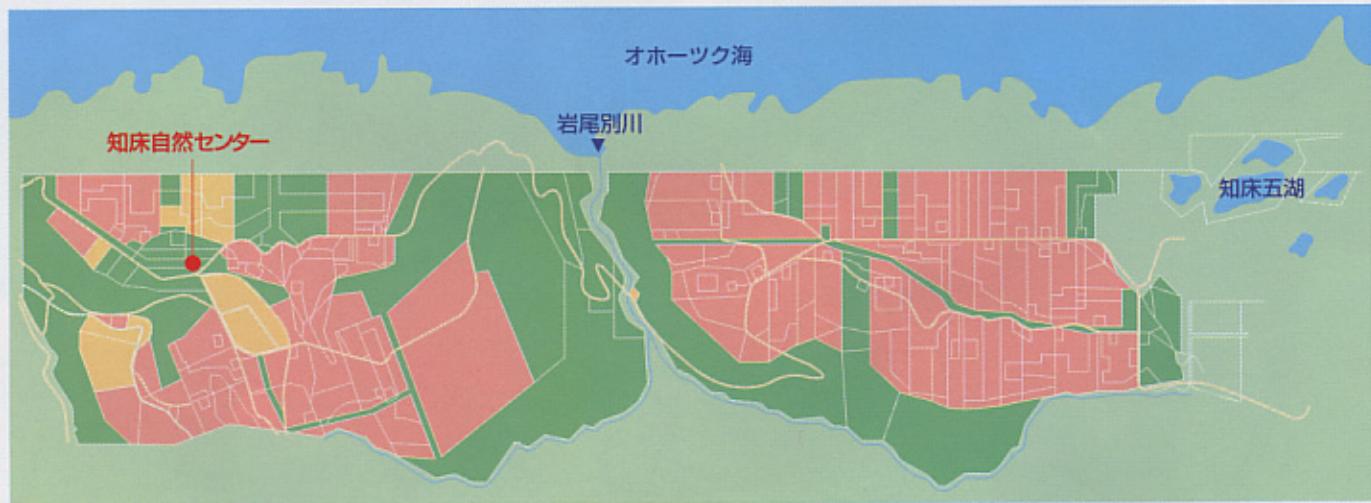
このたまごが育てる森を次の世代へ



昭和52年、「知床で夢を買いませんか!」と呼びかけた「しれとこ100平方メートル運動」。20年を経て、4万9千人の皆様の善意によって「夢の場」は確保されました。

この地に夢を育てようとする新たな運動展開「100平方メートル運動の森・トラスト」も、今年で4年目を迎えました。平成11年度も全国のたくさんの方々からご寄付が寄せられ、一年を通じてさまざまな森づくりの取り組みを行うことができました。ご協力、本当にありがとうございました。今年度も夢の実現に向けて、より多くの方々と夢を共有するために、精一杯の活動をしてゆきたいと思います。今後ともあたたかいご支援をお願いいたします。

斜里町長 年末



「しれとこ100平方メートル運動」によって買い上げられた約450haの地域とその周辺の町有地を合わせた約900haもの大地が運動地です。

平成9年、斜里町は新たな条例「しれとこ100平方メートル運動地保全管理条例」を制定し、この地に「譲渡不能の原則」を定めました。皆様の夢によって確保された運動地は、知床の峰に抱かれて、永久に保全されることが約束されたのです。



■ 表紙写真 運動で取得した土地 元々の町有地 未買収地

今年も森づくり作業が始まっています。森の番人を中心とするチームがまず最初に取り組んだのは、ハリニレの大木をシカの食害から守る作業です。彼らの好物であるハリニレは、運動地から次々と姿を消しつつあります。次の世代を産み落とす大きな母樹までが軒並み樹皮を剥がされてしまっています。

「100年、200年先の知床の森にも、ハリニレを残したい」
そんな思いで、森の番人の橋本さんとボランティアスタッフが、残り少なくなったハリニレの大木に食害防止用のネットを巻きつけています。

不变の原則

不变の原則は、野生動植物研究の専門家5名と地元の有識者2名からなる専門委員会議で定められた「森の憲法」です。森林再生計画は、この原則を遵守しながら慎重に策定されています。

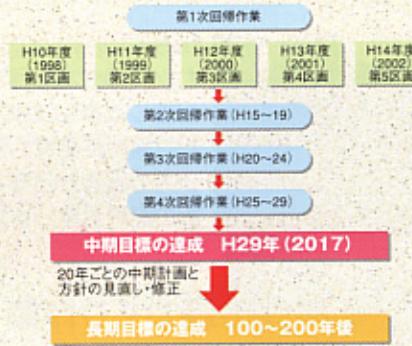
- 植林木の生長によって余剰の樹木が生じても、運動地の系外への人為的な持ち出しが認めない。
- 自然に再生しつつある二次林では、森づくりのためであっても、大規模な森林構造の急変は行わない。
- 再生計画の実施にあたっては、国立公園および自然教育の場としての位置づけに配慮した森づくりを進める。
- 5年一巡の回帰作業方式をとり、過去の作業結果を評価するモニタリング調査を欠かさない。

- 作業計画の立案や見直しは、定期的に開催する専門委員会議に諮り、承認を得なければならない。
- 野生動物とその営みの再生にあたっては、遺伝子汚染を防ぐこと。減少種の回復は、現地の個体群からの増殖を基本とする。また、絶滅種の復元では、遺伝的にも地理的にも極力近い個体群からの再導入を原則とする。

回帰作業方式

しづとこの森の再生作業は、100年後、200年後の森の姿を見据えて、このように進められていきます。

しづとこの森づくりは、900haあまりの運動地全体を5つの区画に分け、5年で一巡する回帰作業方式によって、順次作業が進められています。この回帰作業を4回繰り返した20年後に中期目標の達成、さらに100~200年後には長期目標の達成を目指します。もちろん、すべての作業結果は専門委員会議の中で評価され、必要に応じて作業計画や方針の見直し・修正がなされます。



平成11年度の森づくり

運動地での森づくりは、森の番人の橋本さんと補助スタッフを中心に進められています。日々、試行錯誤を繰り返しながら、100年、200年先の森の姿を夢見て、豊かな生態系を復元するための様々な作業を行っています。

平成11年度は、10haの地域に新たな植林を行ったほか、過去の植林地への補植も行いました。また、今後の森づくりのために、苗を育て、木を守る、森の再生作業と、森の変化を長期にわたって見守るモニタリング調査を並行して進めています。

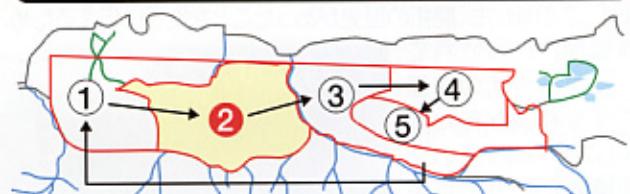
■サクラマスの再生にむけて

運動地の生物相を復元するための試みがスタートしました。森から海へ、そして海から森へ、壮大な自然生態系の循環を保全・再生することが目標です。その第一歩として、運動地の川では絶滅してしまったサクラマスの再生に取り組み始めました。また、河口近くにウライ(魚止め)のある岩尾別川では、漁協の皆さんとの協力を得てカラフトマスやシロサケを上流へ再放流することで、自然産卵の姿の復元をめざしています。



運動地内を流れる河川の上流部に、サクラマスの稚魚や孵化直前の卵を計16万匹放流

作業区画地図



平成11年度は第2区画(図の②)を中心に行われました

カラフトマスとシロサケを魚止めの上流へ再放流、さっそく上流部でこれらの魚を捕食するヒグマの姿も



森づくり作業

豊かな森づくりを目指して、平成11年度は、次のような作業を行いました。
急増するエゾシカによる食害から木をいかにして守るか?これとこの森づくりの大きな課題です。

苗畑での苗木づくり

これから森林再生に必要な苗を育てる畠の整備と苗の育成作業を行いました。苗畑は、シカの食害防止のためのフェンスで囲まれています。



運動地内で集められたドングリが無事発芽
しばらくの間、安全な柵の中で育ててやがて
運動地の森へ戻してゆきます

防風林づくり

強風のために植林がうまくいかない地区に、防風効果とシカの食害防止をかねた柵を設置。将来の森づくりのために、まず、未立木地への防風林の育成をめざします。



強風とシカ、どちらも手強い相手です

カツラの河畔林を再び!



岩尾別川沿いでは、かつてのカツラの大木の河畔林の復元を目指した再生試験が始まりました。新たに発芽した小さな苗をシカの食害から守るために、木板の柵を設置しました。

その他の森づくり作業

このほか、ヒグマなど動物の餌となる実をつける木の保護作業、シマフクロウの営巣可能木の保護作業、カラマツ造林地の樹種の多様化作業、種子の採取と苗畑への種まき作業、カエル産卵池周囲のヤナギ挿し木の補植作業などを行いました。

農業開拓の歴史を伝えるために

今、かつての開拓農家の跡がどんどん朽ち果てていっています。この地にも、開拓の歴史があったことを後世に伝えるため、運動地内に残されている開拓時代の家屋の保全作業が行われました。今後、森の交流事業や森づくり作業の拠点として活用される予定です。



森と自然の追跡調査

しれとこの森づくりの特徴は運動地の森がどのように変化していくのかを追跡し、その結果を次の作業に生かすところにあります。調査区を設けて、木の台帳作りをしています。



標識用のプレートもすべて手作り
冬の間の地道な作業です

森の番人に聞く

編集：森の番人のように自然相手の仕事をするには何が必要だと思いますか？

番人：自然に対して興味を持つこと。興味があるかないかが一番重要だと思います。

編集：では、自然についての知識は、どうしたら身に付けられるのでしょうか？

番人：自分が興味あるものをより深く知りたいと思えば、どうしても他の生き物や自然現象について知りたくなります。興味があれば、それだけ理解も早い。とにかく、興味を持つことです。

編集：そもそも、橋本さんが生き物にふれるようになったきっかけは？

番人：釣りです。小学生の頃、川が雪に閉ざされていない季節は、魚を求めて山を歩き回っていました。たくさん釣るためにには、魚のことをよく知らなければなりません。中学生の頃からは、昆虫に興味を覚え、採集するようになりました。今もたくさんの蝶に囲まれた生活をしています。

編集：嫌な質問だと思いますが、生き物を採集するということは、結局、命を奪うということですよね？森づくりという生き物をはぐくむ活動と採集は相反すると感じる人もいると思いますが？

番人：別に殺生はすすめませんが、死なせてしまったという経験は、生き物を知る上で基本的な事だと思います。扱い方に馴れない方は、どうしても殺してしまう。その反省から、どうやったら生かせるのかを学べるのです。今なら、何倍もの数を生かし、育てられます。

編集：確かに、生き物は本の上の単なる知識ではありません。現実に生きているものに、興味を持って近づくことは重要なと思います。では、最後に、運動参加者の皆さんにメッセージをお願いします。

番人：参加者の皆さんには、ぜひとも、しれとこの森を歩いて、森づくりを見てもらいたい。また、参加者とその子供達の中から、それぞれの地域で、自然と携わる人が育って欲しい。

編集：森づくりは、試行錯誤の連続だと思います。これからも、じっくりしれとこの森とおつき合い下さい。



橋本さんとワークキャンプの参加者

森の交流事業

平成11年度も、多くの運動参加者がしれとこの森を体感しました。

森づくりワークキャンプ

平成11年11月1日~6日

土いじりに我を忘れてしました。



多くの応募者の中から抽選で選ばれた11名の老若男女(23才から59才)が参加しました。苗畑への種まきや山採り苗の移植作業など、森を作り、そして守るためにいろいろな作業をこなしました。



少数精鋭の森づくりチーム森の番人と寝食をともにしながら、濃密な6日間を過ごしました

しれとこ 森の集い

平成11年9月19日

すくすくと大きく育ってほしい。

全国各地から約106名が参加。午前中は、森の番人の案内で森づくりの作業地を見学。午後は、アカエゾマツを200本、トドマツを100本、記念植樹しました。



知床自然教室

平成11年7月30日~8月5日

楽しみながら、自然を学んだ!!

地元斜里町や関東・関西、遠くは九州から33名の子供達が参加しました。野外キャンプをしながら、知床の森でさまざまな自然体験をしました。今回は、暑い日が続き、のどの渇きに、普段忘れがちな「水の大切さ」を実感しました。



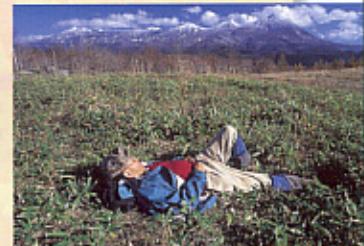
全国から知床に集まった33名の子供たち
1週間の野外教室が終わる頃にはすっかり「自然鬼」になっています

Voice

<交流事業参加者の声>

ご夫婦で森づくりワークキャンプにご参加いただいた
神奈川県の下隆全(しも・たかまさ)さんから
寄せられた手紙です。

森づくりワークキャンプで大変お世話になりました。このキャンプは私たち夫婦にとって、まるで夢の世界にいるような経験でした。青く澄んだ秋空の下、遠くそびえる雪を被った知床連山、その麓に広がる紅葉の樹林の帯、そして目の前の白樺林、そんな大自然の懷の中で、現実の自分の姿がいつの間にかどこかに消えてしまい、代わりにスコップを持って黙々と土を掘り、夢中で木に金網を巻きつけ、無心になって働いている別の自分を発見しました。それは今までの自分とはまったく違うものでした。これほどまでに何もかも忘れて、無邪気な気分になれるとは思ってもみなかつただけに、その感慨はひとしおでした。大自然の威力もさることながら、「森の番人」のウイットに富んだ(ダジャレたっぷりの?)熱心なご指導に負うところ大でしょう。



このような得がたい体験を与えてくださったスタッフのみなさんの、事前準備やそのためのご苦労に比べると、私たち素人集団がやった仕事は余りにも微々たるものだったでしょう。でも、私たちの心の中に残った足跡は計り知れないほど大きいのです。

今回親しくなった仲間の一人からその後もらった便りには、「また元通りの生活に戻ったが、以前とは何か違う自分のようです」と書いてありました。これほどの体験を他の人たちにも味わって貰いたいと願う一方で、私たち夫婦にとって、今回の体験だけで終わらせたくない、来年以降もずっと続けたいという気持ちが強くあります。

子供達が考えた シカ問題



シカ自然教室に参加した子供達も森づくりのお手伝いをしています。森の番人の案内で運動地の森を歩いて回り、苗畑での草取り作業やペットボトルを使ったシカの食害防止作業などを进行了。

作業終了後には、森の住人であるシカが、森の木を食べ尽くしてしまっているという問題について、どうしたらよいのかを話し合いました。

森

が育む豊穣の川 魚がもたらす森の豊かさ

ヒグマやシマフクロウなど

北海道を代表する動物が知床の森には
棲んでいます。彼らの命を支えてきたものの
一つが海と川を行き来する魚たちです。
海と森と川が一体となったダイナミックな
自然生態系の循環を再生する試みが
スタートしました。私たちは魚のあふれる
森づくりを目指します。



初夏の幌別川

婚姻色の現れたメスのサクラマス



●サクラマスの泳ぐ川

サクラマスは、本州ではヤマメと呼ばれる渓流の魚です。知床では一度海へ下り、大きくなって川へ戻ってきます。運動地の川からいなくなってしまったサクラマスを再び呼び戻したい。



渓に沿むサクラマスのオス。その婚姻色は日本のサケ科の中で最も鮮やかである



2年の回遊を終えて再び岩尾別川に戻ってきたカラフトマス



●動物の訪れる川
魚を求めていろいろな動物が
運動地の川へ来て欲しい。

シマフクロウの
主食は魚



産卵間近のシロサケ



シロサケをくわえるキタキツネ



カラフトマスをさがすヒグマの親子

●サケ・マスが自然産卵する川
カラフトマスやシロサケは秋に川に
産卵のために戻ってきます。彼らの自
然の営みの姿を復元したい。

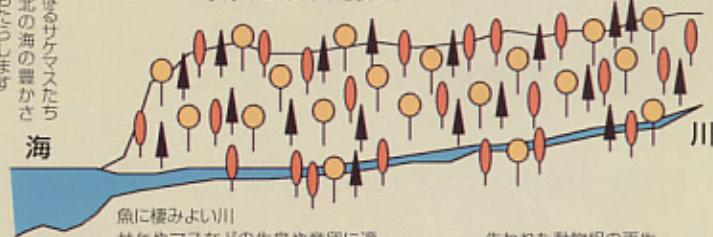
生物相を豊かにする森づくり

川にのぼるサケマスたち
彼らが北の海の豊かさ
を森にもたらします

大木を増やす
シマフクロウやオジロワシの
子育てには大木が必要です

森

多様な森林環境
草木や果実は動物たちの大
切な食料です
豊かな森は、川と魚を育みます



魚に棲みよい川
サケやマスなどの生意や産卵に適
した環境を作ることは、森の動物の
餌を増やすことにつながります

失われた動物相の再生
サクラマスなど、絶滅してしま
った動物たちを蘇らせます

平成12年度の事業計画

平成12年度はこんなことを行います
(本年度の作業は岩尾別川右岸の第3区画を中心に行います)

【 岩尾別川にカツラの林の再生を 】

台風で河畔林が失われた河原に表土を被せ、苗畑で育てたカツラの苗を移植します。シカの食害を防ぐための柵をつくりながら作業を進めます。

【 カシワの林を育てます 】

開拓によって少なくなったカシワの林を拡大するための試みを始めます。

【 まずは、防風林の育成から 】

強風のために幼木が育たない場所に防風柵をつくり、その中で防風林を育てます。防風林は、将来の森づくりのために欠かせません。

【 もどってこい！サクラマス 】

引き続き、サクラマスの再生試験を進めます。また、放流魚の定着状況を追跡調査します。

【 多様性の高い森へ 】

数の少ない樹種や動物の餌となる実をつける樹種をシカの食害から積極的に守ることで、二次林を多様な樹種の森へと誘導していきます。

このほか、これまでと同様に、苗畑の管理やシカの食害防止作業、稚樹の植林などを進めます。



4月の知床岬 シカたちは、先端の茶色い部分の草地と背後の森林を行き来して生活する

知床岬のエゾシカ
Topics
知床
トピックス

知床岬地区はシカが冬越しをするための環境が整っているため、とりわけ生息密度の高い地域です。運動地がある幌別・岩尾別地区もエゾシカの高密度地域ですが、知床岬はさらにそれを上回る密度です。従って森林植生への影響もより強く出ています。私達は、運動地の森づくりの今後を検討するための参考資料として、知床岬の状況にも目を向けています。

知床岬では、1986年当時の調査で53頭確認されたエゾシカが、その後爆発的に増加して、1998年には約12倍の592頭になりました。この過程で森林植生が受けた影響は絶大です。シカの大好物のオヒョウやハルニレ、ノリウツギなどは早々に姿を消し、若い木は樹種を問わず激減しました。ある程度の太さのシカが好まない樹種だけが生き残り、その後の動向が注目されましたが、1998年についに次なる段階へと進行してしまいました。これまで決して食べないと考えられていたミズナラの大径木が一気に食害を受け始めたのです。個体数の増加にともなって餌の絶対量が減り、もう選択の余地のない状況になってしまったのでしょうか。翌年の春には、このような食料不足のつけが「大量死」という結果で現れました。592頭までふくれあがったシカが、一気に177頭まで激減したのです。ところが、それでもミズナラの食害は止まりませんでした。今年の個体数調査では、カウント数は再び200頭を越え、早くも回復の兆しが見え始めています。

森林植生にあまりにも大きな影響を与えるエゾシカ。彼らとどう折り合いをつけるかが、運動地の森づくりを進めるうえで大きなキーポイントとなっています。

無惨に樹皮を剥がされたミズナラの大木を調査する橋本さん
運動地がこうなってしまったらどうしよう 心配は尽きません



森の交流事業

あなたもしれとこの森に来てみませんか?

今年も、以下の3つの企画で皆さんのお訪問をお待ちしております。

お問い合わせ・お申し込みは随時受け付けております。なお、受付先が企画ごとに異なりますのでご注意下さい。

知床自然教室

■期間:平成12年 7/30~8/5
(野外泊が中心)

運動参加者の皆さんとの子供達が、しれとこでキャンプをしながら山・森・川で思いっきり遊び、そして森づくりを体験する7日間です。

- 対 象 小学校4年生から高校3年生
- 参 加 費 35,000円~154,000円
(集合場所からの交通費を含みます)
- 集 合・解 散 全国的主要な空港にて集合・解散
- 締 切 平成12年6月30日
- 問い合わせ 自然教育研究センター「知床自然教室係」
申込先 Tel: 042-528-6595 Fax: 042-528-6596
- *斜里町内の方は、斜里町役場自然保護係までお問い合わせ下さい。



■主な集合場所からの参加費用(交通費含む)

	斜里町	札幌	東京	名古屋	関西	福岡
小学生	35,000	60,000	74,000	78,000	81,000	103,000
中高生	35,000	72,000	94,000	105,000	112,000	154,000

記念植樹祭

しれとこ 森の集い

■期日:平成12年 9/17
(日曜日)

しれとこの森に集い、木を植えます。

午前中は森の番人の案内で森づくりのようすを見学します。

午後は、知床連山を望む運動地の草原で植樹祭を行います。

(午前・午後どちらか一方のみでも参加可能です)

- 集 合 午前の部(森の散策) 9時 知床自然センター
午後の部(植樹祭) 13時 知床自然センター
- 参 加 費 無料(集合場所までの交通費は各自の負担となります)
- 問い合わせ 斜里町役場自然保護係
申込先 Tel: 01522-3-3131 Fax: 01522-2-2040



森づくりワークキャンプ

■期間:平成12年 11/1~11/6
(5泊6日)

森の番人とともに森づくり作業で汗を流しませんか?

皆さんの夢によって育まれる森を体験する6日間。

老若男女を問わず、秋空の下で和気あいあいと行う森づくりの合宿です。

- 対 象 18才以上
- 定 員 12名(応募が定員をこえた場合は、抽選とさせていただきます)
- 集 合 知床自然教育研修所
- 宿 泊 知床自然教育研修所
- 参 加 費 15,000円(食費の実費等です。交通費は各自の負担となります。)
- 締 切 平成12年8月20日
- 問い合わせ 知床自然センター
申込先 Tel: 01522-4-2114 Fax: 01522-4-2115



100平方メートル運動の森・トラスト

今年も
たくさんのご寄付を
ありがとうございました

たいへんな時間と労力を要する森と自然の再生。
それは皆様からの毎年の寄付金によって支えられています。

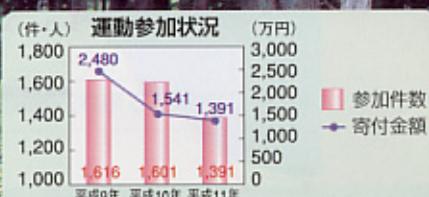
今年も様々な方々のご厚意をいただきました。

亡くなられたご主人の遺産の一部として100万円もの寄付を寄せられたご婦人。

毎月毎月10回もの寄付を下さった方。等々。

寄せられた善意を森にそびえるミスナラの大木のように

大きく育てていきたいと、担当者一同、決意を新たにしております。



都道府県別参加状況(平成12年3月末日現在)

都道府県名	件数(人)	都道府県名	件数(人)	都道府県名	件数(人)
北海道	902	石川県	13	広島県	43
(斜里町)	473	福井県	9	山口県	16
青森県	35	山梨県	12	徳島県	8
岩手県	18	長野県	33	香川県	14
宮城県	51	岐阜県	43	愛媛県	12
秋田県	14	静岡県	65	高知県	12
山形県	18	愛知県	305	福岡県	48
福島県	14	三重県	37	佐賀県	21
茨城県	66	滋賀県	28	長崎県	10
栃木県	36	京都府	120	熊本県	11
群馬県	45	大阪府	320	大分県	12
埼玉県	257	兵庫県	175	宮崎県	5
千葉県	251	奈良県	47	鹿児島県	6
東京都	797	和歌山县	18	沖縄県	37
神奈川県	520	鳥取県	7	外国	15
新潟県	33	島根県	9		
富山県	19	岡山県	21	合計	4608

知床で夢を 育てませんか!

日々の森作りに活躍する森の番人。1人ではたいへんな作業ばかりです。当面の目標は、毎年2000万円の募金を達成し、森の番人2人体制の財源を確保することです。

皆様のご協力を改めてお願いいたします。

参加するには?!

1】申込書を郵送またはFAXにてお送り下さい。

2】寄付金は1口5000円。郵便振替又は現金書留で、斜里町役場までご送金ください。

●郵便振替の場合

○口座番号02740-8-10555

○加入者名「斜里町役場」

○申込書は、必ず別送下さい。

●現金書留の場合

○斜里町自然保護係へ申込書を同封の上、直接お送り下さい。

運動に参加されると!

●将来の森をイメージした募金証書を発行いたします。

●ご寄付の翌年には「しれとこの森通信」をお送りします。

●運動地の森を通して交流し、森づくりにたずさわる機会をご提供します。

●5年周期の回帰作業の終了翌年に、報告書をお届けします。

お申し込み・お問合せ先

〒099-4192

北海道斜里郡斜里町本町12番地

斜里町役場自然保護係

TEL:01522-3-3131

FAX:01522-2-2040

申込書は、ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.ohotuku26.or.jp/shari/100m2/>

募金証書



●動物画家 田中豊美さんの手による知床の森と動物たちです。メッセージを書き込むこともできます。例えば「祝 お誕生」など。ご友人知人へのプレゼントで、ご協力いただくこともできます。

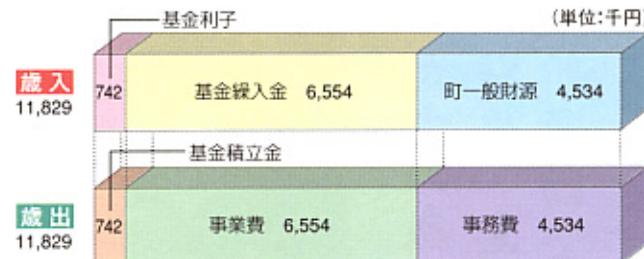
●地元、斜里の木工サークルの方々手作りの額縁も別途ご用意しております。美しい木目が好評です。詳しくは参加申込書の裏面をご覧下さい。



平成11年度決算

■保全管理事業

平成11年度には、新規の土地取得はありませんでした。約10haの新規植林、補植、下刈りに589万円、森林保険に66万円などの事業費が使われました。事務費の内訳は、「しれとこの森通信」の発行費用が388万円、100平方メートル運動ハウスの設備が42万円などです。



■森林再生事業

平成11年度は、第2区画の作業が主に行われました。事業費は、森の番人とその手伝いの補助員の人工費や活動費用に718万円を要しました。

また、この年度からスタートしたサクラマスを川に復活させる仕事やシロザケなどを自然産卵させる仕事に43万円、森や動物たちのモニタリング調査に34万円などが使用されました。交流事業には266万円を用いました。事務費は、運動のパンフレットや募金証書などの印刷、受付事務員の賃金など、687万円余りです。



※9千円が翌年に繰り越されます。

■森林保全基金と資産の状況

国立公園内森林保全基金の状況

国立公園内森林保全基金				(単位:千円) (平成12年5月31日現在)			
土地保全管理資金(保全管理事業のための資金)			森林再生等資金(森林再生事業のための資金)				
	H10年以前	H11年	計		H10年以前	H11年	計
歳入	寄付金 522,534	0	522,534	歳入	寄付金 40,220	13,913	54,133
	利息 66,513	742	67,255		利息 74	147	221
	計 589,047	742	589,789		計 40,294	14,060	54,354
歳出	土地取得 311,167	0	311,167	歳出	事業費 11,523	11,456	22,979
	植林等事業 89,594	6,554	96,148		事業費 6,706	2,782	9,488
	事務費 81,543	0	81,543		計 18,229	14,238	32,467
	計 482,304	6,554	488,858		22,065	△178	21,887
残高	106,743	△5,812	100,931	残高			

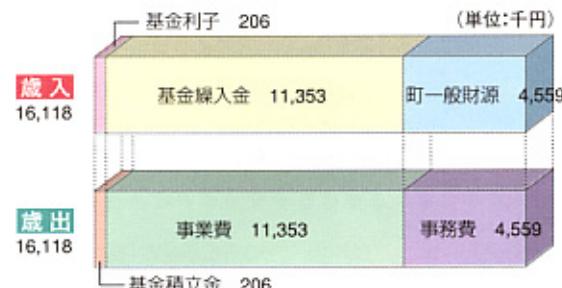
※事業費には森林再生事業費と森の交流事業費が含まれます。

保全された土地の現状		(単位:ha)
運動対象地	保全済み地域 (運動による保全地域447.56) (既存町有地488.61)	936.17
	未取得地 (全体の2.5%)	24.38

平成12年度予算

■保全管理事業

事業費は約19haあまりの植林事業や森林保険の更新など計1,135万円余りが予定されています。事務費は「しれとこの森通信」の印刷・発送の費用など計456万円です。



■森林再生事業

平成12年度の事業費は総計1,079万円余り。森の番人とその手伝いの補助員の人工費や活動費用に611万円、サケマスが遡る川作りやモニタリング調査に110万円などが予定されています。また、専門委員会議や新たに立ち上げるシカ対策ワーキンググループの運営にも91万円があてられる予定です。その他、交流事業には256万円が予定されています。

事務費には運動のパンフレットや募金証書などの印刷、受付事務員の賃金など、598万円が見込まれています。

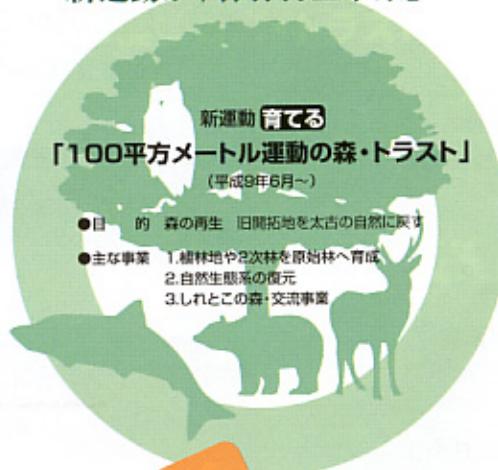




しれとこ100平方メートル運動のわく組

太古の森
野生の息吹を育てる
新運動への展開

新運動が「森林再生事業」



旧運動の継続事業が「保全管理事業」



旧運動 「国立公園内しれとこ100平方メートル運動」 参加者の皆様へ

- 皆様のご寄付によって保全された土地は、「譲渡不能の原則」を定めた条例によって、今後とも厳正に保全されます。
- 未買収地など旧運動の残る課題は「保全管理事業」の中で平成13年までを目標に達成をめざします。
- 毎年の「しれとこの森通信」の発行費用が、300万円以上にも及んでいます。平成13年以降は、通信の発行を随時必要に応じて行うこととさせて下さい。
- 新運動の「しれとこの森交流事業」への参加は、今後とも可能です。

新運動 「100平方メートル運動の森・トラスト」 参加者の皆様へ

- 毎年の皆様の寄付によって、森と自然の再生と参加者の交流事業が行われます。
- ご寄付の翌年度に「しれとこの森通信」をお届けします。今回は平成11年度にご寄付いただいた方へお送りしています。
- 5年周期の再生作業の結果を、回帰作業終了翌年に、報告書としてお届けいたします。平成9～11年にご寄付いただいた皆様にお送りするのは、平成15年度となります。
- 寄付の翌年後には、交流事業のご案内を毎年お送りすることができませんが、定期で行われていますので、お問い合わせ下さい。いつでもお申込可能です。

お願い

- 住所変更の際にはご連絡ください。

インターネットでつながる
しれとこ夢の森

[http://www.ohotoku26.or.jp/shari/100m2/
\(ホームページをご利用下さい\)](http://www.ohotoku26.or.jp/shari/100m2/)



森づくりの様子、しれとこ100平方メートル運動の季節の情報など盛りだくさんで、お届けしています。知床自然教室など「しれとこ森 交流事業」に、参加ご希望の方は、こちらで情報をご入手下さい。いつでも参加を受け付けております。運動参加申込書のダウンロードもできます。

カードで知床の
森づくりを
ご支援下さい!!



(財)緑の地球防衛基金と(株)ダイエーオーエムシーでは、地球環境保全に貢献するクレジットカードを発行しています。その中の「知床の自然を守る」カードを使うと、皆様のご負担なしで運動に貢献いただけます。

※ご利用額の0.5%が、カード会社の負担で「100平方メートル運動の森・トラスト」に寄付されます。

※買い物をしているだけで、新たな負担なしに運動をご支援いただることができます。

「知床の自然を守る」カードによる寄付額は毎年約140万円にものぼります。ぜひご活用下さい。

■お問い合わせ先
(株)ダイエーオーエムシー提携加盟店部「OMCエコロジーカード」係
〒141-8511 東京都品川区西五反田7-21-1 TEL(03)3495-8610

知床国立公園カムイワッカ地区 自動車通行規制にご協力下さい!

- カムイワッカへは、ゆっくりのんびり、シャトルバスでどうぞ!
- 今年も「奥知床」の自然を守り、知床らしい雰囲気で皆様にご利用いただくために、交通規制が行われます。
- 規制路線 道々知床公園線の知床五湖から奥、知床大橋まで。
- 規制車両 自転車以外のすべての車両。
- 期間 平成12年7月29(土)～8月20日(日)
終日規制
- シャトルバス運行時間 午前7時～午後5時40分
詳しくはお問い合わせください。
環境庁ウトロ自然保護官事務所
TEL:01522-4-2297
斜里町自然保護係 TEL:01522-3-3131 (内線124)